

産経新聞

朝の詩

かなしみ

大阪府東大阪市
竹野 政哉 26

かなしみ
しみ、かな
きえる、かな
それとも
わたしが
わたしであるという
しるべの
ひとつ、かな

(選者 新川和江)



台湾総統選 馬英九氏220万票差 圧勝

【台北11日共同】台湾の総統選が22日行われ、即日開票の結果、最大野党・中国国民党の馬英九前党主席(57)が圧勝した。8年ぶりの政権奪還を実現した馬氏は、選挙結果は台湾住民が「兩岸(中台)の平和を望んでいる」とを示したと述べ、勝利宣言を行った。「台湾人政権」の存続を訴えた与党・民主進歩党の謝長廷元

行政院長(首相)161万の票差は、220万票以上も開き、謝氏は敗北を認めた。一方、総統選と同時に実施された国連加盟を問う住民投票は、投票総数がある権者全体の過半数に達せず不成立となった。中央選挙委員会の発表(開票率100%)で、得票数は馬氏が765万8724票(得票率は過半数

最高の58.45%)、謝氏は544万5239票(得票率41.55%)。投票率は前回より0.4年総統選の80.28%を下回り、76.33%となった。副総統には、馬氏(ペア)を組んだ蕭万長元行政院長(69)が選ばれた。今回の選挙は、中台兩岸関係や経済振興策が主な争点となった

が、与野党両候補の主張は4年前の総統選ほどの差はなく、国民党が絶対多数を得た。11月の立法院委員(国会議員)選に続き、初回の「台湾人政権」を実現した8年間の陳水扁政権に対する不信任投票の色彩も帯びた。事前の世論調査では支持率で馬氏が謝氏を大きくリードした。馬氏は巨大市場を抱える中国の融

和で不況感の漂う経済の活性化を掲げ、対中依存度を高める経済界の期待を取り込む一方、陳水扁政権の腐敗や経済失政に対する民衆の不満を吸収するとして、優位に選挙戦を展開した。新しい正副総統の就任式は5月20日に行われる。任期は5年。(2面に)王主席、3、6面に閣連記事)

中傷合戦 政治に嫌悪感

【台北11日共同】台湾の総統候補、謝長廷氏は総統初日の21日夜、台北市内で開かれた最後の集会で、「馬英九氏が当選し、住民投票が成立しなければ、国際社会は台湾人が『台湾は中国の一部』と認められ受け取る恐れがある」と悲壮な表情で訴えた。しかしその声は有権者に届かなかった。過去の総統選で民主進歩党を支持したのは、10%は台湾人にと考えられ、台湾人意識の高まりだった。謝氏も最後までそれを強調したが、集票の原動力にはならなかった。

蔣介石政権下で「中国人教育」が台湾に浸透したが、台湾生まれの初代総統となった李登輝氏の政権時代に台湾人意識が広がった。台湾の政治大学選挙研究センターの調査では、自分を「中国人」と考える住民の比率は昨年6%を切り、10%は台湾人でもあり中国人でもあるとの意識をもつ層を加えれば、89

台北で20日、総統選の勝利を祝う国民党の馬英九前主席(中央)と蕭万長元行政院長(右)。左は連戦名譽主席 (A.P.)

「独立」より安定選択

・5%までが「台湾」を意識したアンケート結果をもちにきた。しかし、陳水扁政権(8)の8年、新憲法制定を公約にしながら実現できなかった、台湾人意識に水をさすような政策に終結した。有権者は結局、国際社会に台湾人の存在感を示す理想よりも、低迷する経済の打開に向け中国との連携を訴えた国民党の現実策を選択した形だ。

また、陳總統の家族をめぐる金銭疑惑、さらには政策実行能力に対する批判票が、国民党の馬氏に流れた点も見逃せない。謝長廷は「馬氏が『一つの中国』を認めれば『国製品』が押し寄せて」と危機感をあおり、対中強硬に傾く国民党の姿勢を繰り返して批判し、台湾人意識の高揚で結束を固めたことだ。

東京都が1000億円を出資して設立し、経営難に陥っている新銀行東京が、開業直後の平成17年8月に策定した「中期経営目標」で、都が作成した経営指針「新銀行マスタープラン」(16年2月公表)より無担保融資を大幅に増やし、開業3年後の届け付き想定額を倍増させていたことが22日、分かった。融資残高の減少が見られる中、旧経営陣が新銀行の主力商品だった無担保融資の実績を上げようとしたとみられ、結果的にずさんな融資を拡大させた格好だ。

マスタープランは開業3年目(19年度)の融資・保証残高を9300億円と見込んでいたが、中期経営目標では1099億円から213億円へとほぼ倍増を想定。情勢の変化などを織り込んだ上で、この額を7370億円に下方修正して一見、融資を慎重に進める姿勢を示していた。だが、新銀行の内部資料によると、主力商品で原則無担保の「ポートフォリオ型融資」については逆に、19年度目標額を当初の2800億円から3600億円へと上方修正。融資・保証残高の半分近くを、不良債権化した場合は回収が難しい無担保融資にあてる方針を掲げた。

このため、19年度の届け付きに伴う貸し倒れ引当金執行は今年10日、旧経営陣

新銀行東京 旧経営陣 無担保融資を拡大 焦げ付き2倍想定

しかし、激しい与野党の中傷合戦は台湾世論を分裂させて、若者を中心に政治への嫌悪感を助長、豊かさと安定を希求する民衆を失望させた。最終戦、チベット騒乱などが謝長廷の追い風となったものの、逆転勝利には結びつかなかった。一方、「台湾」を名義による国連加盟をめざす民進党の住民投票をめぐっては、中西両国などが猛反発、国民

の経営責任を列挙した報告書を公表した際、銀行は自らの判断で中営目標を作った。仁岡元代表執行役に当時の「マスタープラン」を聞いたが「マスター」を聞かされたという意識はない」と話した。と説明。中期経営目標の詳細は、マスタープランが掲げた数値以上に無担保の拡大路線を進め、経営陣の責任の一端をものといえそうだ。(2面に)閣連記事)

購読のお申し込み ☎0120-81-2950
http://reader.sankei.co.jp/reader/
配達・集金などのお問い合わせ ☎0120-34-4646
sale-pro@sankei.co.jp
紙面・記事へのご意見・ご質問 ☎03-3275-8884
(平日9時～18時 土曜・日曜、お盆休み)
u-service@sankei.co.jp



4910851012380 00095